

人 気 女 優 2 2 歳

第二卷 極小ビキニで公開収録

海老沢 薫 著

内容

■ 著作権について

■ まえがき

■ 第一章 女芸人の餌食になった人気女優

■ 海老沢薫 B L O G

■ 海老沢薫 W e b 連載小説

※ 海老沢薫 B L O G

・ ・ ・ 最新作の出版情報や、そのほか各種コ
ンテンツ情報などを配信。

<https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/>

■ 著作権について

「人気女優22歳 第二巻 極小ビキニで公開収録」(以下本書と表記する)の著作権は「海老沢薫」にあります。

・本書のすべての内容は、日本の著作権法、及び国際条約によって保護されています。

・「海老沢薫」が事前に書面をもって許可した場合を除き、本書の一部、または全部を、あらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー)により複製、流用、転載、転売することを固く禁じます。

・著作権の侵害につきましては、著作権法第61条などの罰則がありますのでご注意ください。

■ まえがき

人気女優・神里美優は、女芸人・北原貴子に弱みを握られ、深夜バラエティの水泳大会に強制出演させられていた。極小のビキニを着せられた彼女は、女相撲に参加する羽目になり、対戦相手に水着を剥がされ、公衆の面前で辱めを受け、複数回にわたって絶頂を強いられる。決勝ではかつての北原の相手である女芸人・楠山絵里と対峙し、拘束された大開脚姿で卑猥なセリフを叫ばされ、さらなる屈辱を味わう。収録後、美優は立ち直れない日々を送るが、事務所の事情から北原の新たな要求を拒めない。次に待っていたのは、北原がパーソナリティを務めるラジオ番組へのゲスト出演だった。公開収録のため、ガラス張りのブースに極小ビキニ姿で現れなければならぬ。ブース外には大勢のファンが詰めかけ、美優の予想外の姿にどよめく。台本は北原が用意したもので、美優は自ら選んだかのように露出を自慢するセリフを読み上げ、

露出狂を自認させられる。本番中、拘束と刺激を受けながら、趣味やオフの過ごし方について卑猥な告白を強要される。リスナーとの対話コーナーでは、男性ファンや女子大生、そして高校時代の恩師からの相談に答える形で、北原が用意した屈辱的な言葉を紡がされる。清纯なイメージの女優が公衆の前で淫らな本性をさらけ出す様子は、ギャラリィやリスナーを驚かせ、熱気を煽る。北原の巧妙な進行と台本によって、女優は徐々に追い込まれ、女優としてのプライドを大きく揺さぶられていくのだった。嫉妬と加虐心が絡み合う中、彼女の運命はさらに過酷な方向へと進み始める。

■ 第一章 女芸人の餌食になった人気女優

深夜バラエティの収録が行われている屋外プールの中、出演者の女芸人や無名女性タレントに浮かぶ土俵に見立てたマットの上で羞恥に咽ぶ素っ裸の人気女優をギリギリした目で見つめていたのだ。

M Cを務める下ネタ女芸人、北原貴子に脅迫され、無理矢理深夜バラエティに出演することになった人気女優の神里美優は、破廉恥極まりない極小ビキニを着せられ、女相撲に強制参加させられた挙句、対戦相手からそのビキニを剥ぎ取られ、あろうことか強姦されて二度も絶頂してしまったのだった。

今をときめく人気女優がゲスな女芸人や無名タレント達の目の前でイク姿は、あまりに非日常的で、見る者の欲情を激しく煽った。

「ちょっと美優ちゃん！いつまでそこでボツ
ーとしているのよ！早くこっちに戻ってきて
くれる！」
M Cの北原は拡声器を使って、プールに浮か
ぶ土俵上で素っ裸のまま快感の余韻に浸って
いる美優に呼び掛けた。
美優は両手を頭の後ろで拘束されたままゆ
っくりとプールの中に降りると、そのままプ
ールサイドへと歩いて戻った。こんな酷す
ぎるわ・・私、もう帰りたい・・。番組
の収録現場で二度もイカされた美優は、プ
ールの中を歩きながら心の中でそう呟いて
いた。
しかし、北原に弱みを握られている以上、こ
こから逃げ出すわけには行かず、羞恥を堪え
てこのまま収録に参加し続けるしかなかった。
「美優ちゃん、またイツちゃったけど、オッ
パイ揉まれてそんなに気持ち良かった？悪い
んだけど、あんまりイカれると、その部分だ
け放送の時にカットしなきゃいけないって
スタッフさんに迷惑がかかるから、もう少し

、

。

。

我慢してくれないかなあ」
プールサイドまで戻ってきた素っ裸の女優に
対し、北原が呆れた口調でそう呼び掛けると
他の共演者達から笑いが漏れた。
「ご、ごめんなさい・・・」
女優は屈辱に唇を噛みしめながら、謝った。
今日の水泳大会の収録が自分を辱めるために
仕組まれたイベントで、スタッフ達も大部分
が放送できなくなる事は良く分かった上で、
共演者達の暴挙を黙認しているように思えた
而して、女優はまだ収録途中であるにも関
わらず、絶望的な気持ちになりながらプール
サイドに立っていた。やがて、女優はついに
女相撲の決勝戦に挑むことになり、再び極小
ビキニ姿でプール中央に浮かぶ土俵の上に立
っていた。
決勝の対戦相手は、かつてMCの北原と二
人でタカエリという下ネタを芸風とする漫才
コンビを組んでいた楠山絵里という女芸人だ
った。鋭い狐目をした楠山は見るからに性格

が、悪そうな顔をしており、土俵上で向かい合
った美優はすでに怯えてしまっていた。
「ハツケヨイ、ノコッタ！」
プールサイドから行司役の北原が掛け声を上
げると、楠山はいきなり美優の上半身に巻き
付くチューブ型のビキニトップに手を伸ばし
それを頭の上から脱がしにかかった。
「いやあん、やめてえ！」
美優はあつという間にビキニトップを脱がさ
れ、慌てて両手で胸元を隠して狼狽えた。
「こつちも頂くわよ！」
楠山はそう言うのと、今度は美優の下半身に手
を伸ばして、ビキニボトムを一気に足首まで
ズリ下ろすと、そのまま足から抜き取ったの
だった。
「あああん」
またも土俵上で素っ裸にされてしまった美優
は、両手で胸元と股間を隠しながら羞恥に悶
えた。
対戦相手の楠山は、美優の体から剥ぎ取っ

た極小ビキニを自分の首にぶら下げ、素っ裸
の人気女優に向かって不敵な笑みを浮かべた
「ほら、かかってきな！」
楠山は両手で手招きしながら美優を挑発した
「そんな・・・」
土俵上で素っ裸にされた美優は恥ずかしくて
堪らず、とても自分から向かっていくことな
どでできなかった。
「人気女優さん、どうしたの？ サツサと攻め
てきなよ。それともその自慢の体をずっとみ
んなに見せびらかすつもり？」
楠山は全く攻めようとせず、素っ裸の人気女
優が羞恥に咽ぶ姿をただ楽しむばかりだった
「お願いです・・・その水着を返してくださいさ
い！」
素っ裸ではとても自分から攻められないと思
った美優は、楠山に向かって目を潤ませなが
ら懇願するしかなかった。
すると、その様子をプールサイドから見て
いた北原が、ローターのリモコンのスイッチ

をいきなりオンにしたのだった。
「ああん、いやあん」
美優は突然大きな喘ぎ声を放ち、下半身をくねらせて悶えた。
「ちよっと何急に変な声出しているのよ！ま
ったく厭らしいわねえ」
楠山は目の前で急に悶え始めた人気女優の姿を訝しげな表情で眺めた。
そして、プールサイドにいるかつての相方の北原と目が合うと、美優の身に今何が起きているのかを何となく察した様子で、腕組みしながら暫し目の前で悶え狂う人気女優の姿を鑑賞した。
「ああん、こんなの酷い・・・あああん」
美優は土俵上からプールサイドにいる北原の方を恨めしそうに見つめた。すると、北原は不敵に笑いかけ、再びローターを使って美優をイカせるつもりのようなだった。
もうこれ以上みんなの前で恥ずかしい姿を見せられないわ・・・止むことのないロー

ターの振動によって再び絶頂が迫っているこ
とを感じた美優は、自らプールに落ちて早く
勝負を終わらせようと考えた。
そして、美優は悶えながらゆっくりと土俵
の端の方に行き、そのままプールの中に落ち
ようとした。
「そうはさせないわよ！」
美優が土俵の下に身を投げようとしたその時
楠山が美優の腕をガツチリと掴んで、土俵の
真ん中まで引っ張ったのだった。
「自分から負けるなんてズルイことするんじ
やないわよ！」
楠山はその狐目をさらに鋭く光らせ、美優を
叱りつけると、力づくで美優を土俵上に座ら
せた。そして、首に掛けていたビキニトップ
で美優の両手首を頭の後ろで一気に縛り上げ
続いてビキニボトムの端を美優の左足の膝に
縛り付け、そのまま背中の方に引っ張って今
度は右足の膝にもう一方の端を縛り付けた。
「きゃッー、いやぁぁん」

土俵上に大股開きの恰好で縛り上げられてしまつた美優は悲鳴を上げ、必死に両脚を閉じようともがいた。しかし、ビキニボトムできつく縛り上げられた両脚はどうにもならず、美優は両脚を百二十度近く開いた恰好で、ロ―ターの挿入された秘部をおもいきり晒すことになつた。

「ドスケベな女優には、良くお似合いの恰好だわ（笑）」

楠山は我ながら上手くやつたと感心した様子で美優の全裸大開脚姿を眺めた。

「絵里、良くやつたわ！」

プールサイドにいる北原は、かつての相方に対して称賛の拍手を送つた。

「女優があんなオ○ンコ丸出しの恰好して良いわけ？」

「ヤダあ、あの子、アソコに何か入れてるわよ！」

「ロケの最中にアソコに変な物入れるなんてふざけ過ぎじゃない！」

プールサイドにいる他の共演者達は美優の秘
 部にローターが埋まっている事に気づくと、
 次々と容赦ない罵声を浴びせた。
 「いやぁん、お願いです、早く解いて下さ
 い！」
 美優は目の前にいる楠山に必死に懇願したが
 楠山は腕組みしたままただ笑うばかりで、そ
 の間にも秘部に埋まったローターは激しく振
 動し続けていた。
 「あぁん、ダメえ・・・お願いもう許してく
 ださい・・・あぁん」
 美優は大股開きの下半身を自然と上下に揺ら
 し始めていた。
 「人気女優さん、私の言う事を聞いてくれた
 ら、水着を解いてあげてもいいわよ」
 美優の絶頂が近づいていることを悟った楠山
 は何か良からぬ事を企んでいる様子で、そう
 声を掛けた。
 「わ、わかりました・・・何でも言うことを
 聞きますから・・・早く解いて下さい！」

もはやこれ以上快感に抗い続けることはでき
ないと思った美優は、楠山の提案に応じるし
かなかった。
「それじゃあ、今から私が教えるセリフをプ
ールサイドにいるみんなに聞こえる大きな声
で叫んでくれるかしら」
楠山はそう言うのと、美優の耳元で何やら囁き
かけたのだった。

■ 海老沢薫 B L O G

・ ・ ・ 最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報を配信。

<https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/>

■ そのほか SNS

https://x.com/ebisawa_K

https://www.instagram.com/kaoru_ebisawa/

<https://www.pixiv.net/users/70200870>

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『 清楚な美人妻 彩 27 歳 絵画モデル編 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 国民のペットへと堕ちていくヒロイン ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 女神の憂鬱 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675>

『 女教師 玲奈 25 歳 ー 女性教諭の前代未聞の不幸事 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186>

『 美人社長 里帆 26 歳 ー 若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885>